



「山崩のこのかたを湧く清水かな」 田中田士英

田中田士英は明治八年、長崎市生まれ。本名は英二。明治・大正・昭和にわたる長崎俳壇の指導者であり、昭和四年創刊の俳誌『太白』の主宰者として県下はもちろん全国的にも著名な俳句作家であった。

「山崩」の句碑は島原市白土湖畔にある。白土湖は寛政四（一七九二）年の島原大変で眉山が崩壊し陥没してできた湖。こんこんと清水の湧く様子を詠んだ昭和四年の作である。

やまくえ
山崩のこのかたを湧く清水かな

碑は、昭和二十四年四月、島原巢立句会によって建立された。書は巢立句会同人で白土湖近くの安養寺の住職であった、田士英の弟の菊池止戈氏による。

また長崎市立小島小学校には、昭和六年春、田士英が「三十六年勤続の教職を退く日」の感慨を込めた句を刻んだ碑がある。

散る花を手にうけて思ふ事多し